



2017.3.1(水) 19:00～20:45

@市役所会議室2 参加者 7人

幸せ実感広め隊は、幸せのモノサシづくりの一環で、地域活動を行っている人の取材を通して、その活動を広め、市民の幸せ実感を高めていくため、長久手人図鑑をつくっていきます。今回は、幸せ実感アンケート調査の結果速報から気づいたことを共有し、それを踏まえて「幸せのモノサシ」案を検討しました。

◎こんなこと、話しました！

アンケート結果速報から多くの気づきがありました

平成25年度に引き続いて行った「ながくて幸せ実感アンケート」の結果速報(一部)を確認して、それぞれの視点で気づいたことを共有しました。今回の調査では、全回の評点との推移も確認することができ、興味深い結果となりました。

第2回ながくて幸せ実感アンケート 概要

対象 18歳以上の市民5,000人

有効回収率 51.4%(2,569通)

調査期間 H28.12.23～H29.1.16

(平成25年度実施時より、14%UP)



【幸せ感】

- 居住年数3～5年の人たちの幸せ感が少し下がった。
- 若者の幸せ感が少し下がり、高齢者の幸せ感が少し上がった。
- 50代の幸せ感が低いのは、子どもと関わるのが少なくなったからなのか？

【生活の満足度】

- 30代は、自由な時間や、仕事と生活のバランスの評点が低い。70代は逆に高い。
- 健康状況への満足度は、50代が低く、20代は高い。
- 多くの項目で、50代の満足度は低い。

【幸せ感と他の項目との関係】

- 収入、健康、生きがい、家族の存在は、幸せ感に大きく影響しそう。
- 「たつせがある」人は、幸せ感が高そう。

【その他】

- 東小学校区は、住みよいまちと感じている人が、他と比べて低い。
- 通勤先が市内の人が増えたり、就業しやすい環境にある人が増えた。大型商業施設ができた影響か？
- 地域活動や行事に参加している人が少ない。

やっぱり、「地域のつながり」が希薄・・・！？

3年前の調査時に比べて、地域活動や行事に参加している人、たつせがある人、自宅以外の居場所がある人など「地域のつながり」項目の評点が、(少しでも)上がったものも多いが、全体からすると、依然として低い項目が多かったです。地域のつながりが、まだまだ希薄であるようです。

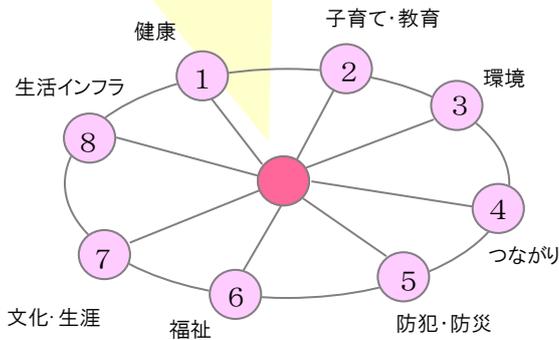
アンケート結果も踏まえながら、まちや人がどのようになったら「幸せなまち」になるのか、具体的なイメージを描きながら、幸せのモノサシの検討を進めました。



目指すまちの姿を、わかりやすく表現すると・・・？

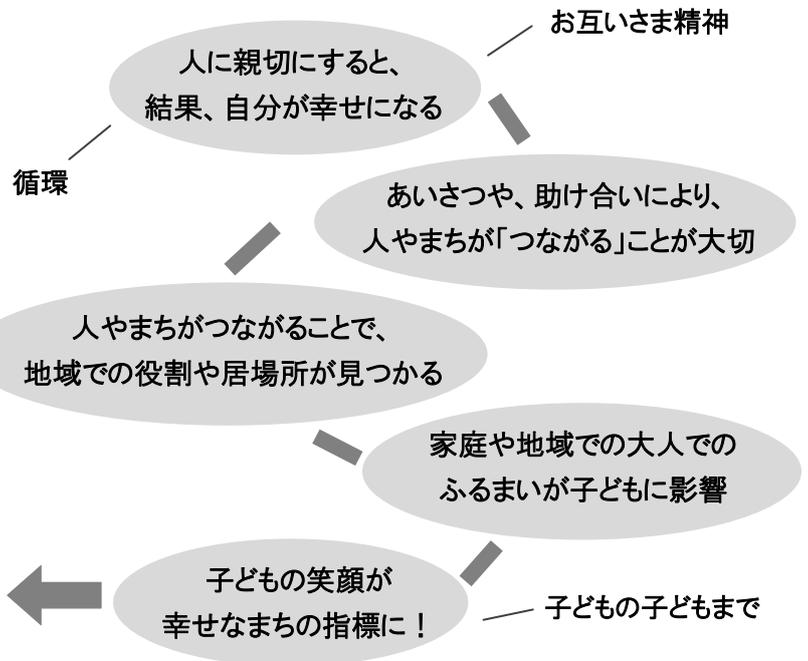
幸せのモノサシとは

8つのすべての項目とつながる、「長久手らしい」モノサシは、未来まちづくりビジョンにある目指すまちの姿とそこで暮らす人(長久手人)をわかりやすく表現したもの。



イメージやキーワードは？

アンケート結果や長久手人の取材を踏まえて、「幸せなまちや人」の状態を具体的に考えてみると・・・



幸せのモノサシ案

**地域で子どもの
笑顔育てるまち**

このモノサシ案を補完するモノサシとして、まちの状態や人の生き方をより具体的に表現した指標が必要だと考えています。

「地域で子どもの笑顔育てる」には、子ども達が、家庭はもちろん、地域などで出会う大人のふるまいが影響するだろうということから、補完するモノサシは、地域に居場所があることや、役割があること、あいさつをすることなど「人と人とのつながり」を測ることができるようなモノサシを考えることとなりました。

いよいよ、今回は「幸せのモノサシ」最終案を確認します。

ながくて実感広め隊では、平成25年度からの活動経過や、幸せ実感アンケート結果を踏まえ、生活者視点で「幸せのモノサシ」を考え、このたびの案ができました。

次回までに、事務局では、今後のモノサシの活用を見据え、幸せのモノサシと関連するアンケート調査の位置付け等についても体系的に整理し、次回のミーティングでみんなで確認します。



◎次回の予定

3月27日(月) 19:00～20:30
@市役所本庁舎2階第2会議室

ながくて幸せのモノサシの最終案の確認を行います。

◎問合せ先

長久手市市長公室経営企画課
電話 0561-56-0600
メール keiei@city.nagakute.lg.jp